

埋文よこはま29

・駒岡周辺の古墳群

・人物埴輪のはなむ



鶴見区上末吉小学校の西隣、兜塚古墳の手前に立つ石碑。墳丘は僅かしか残っていない。

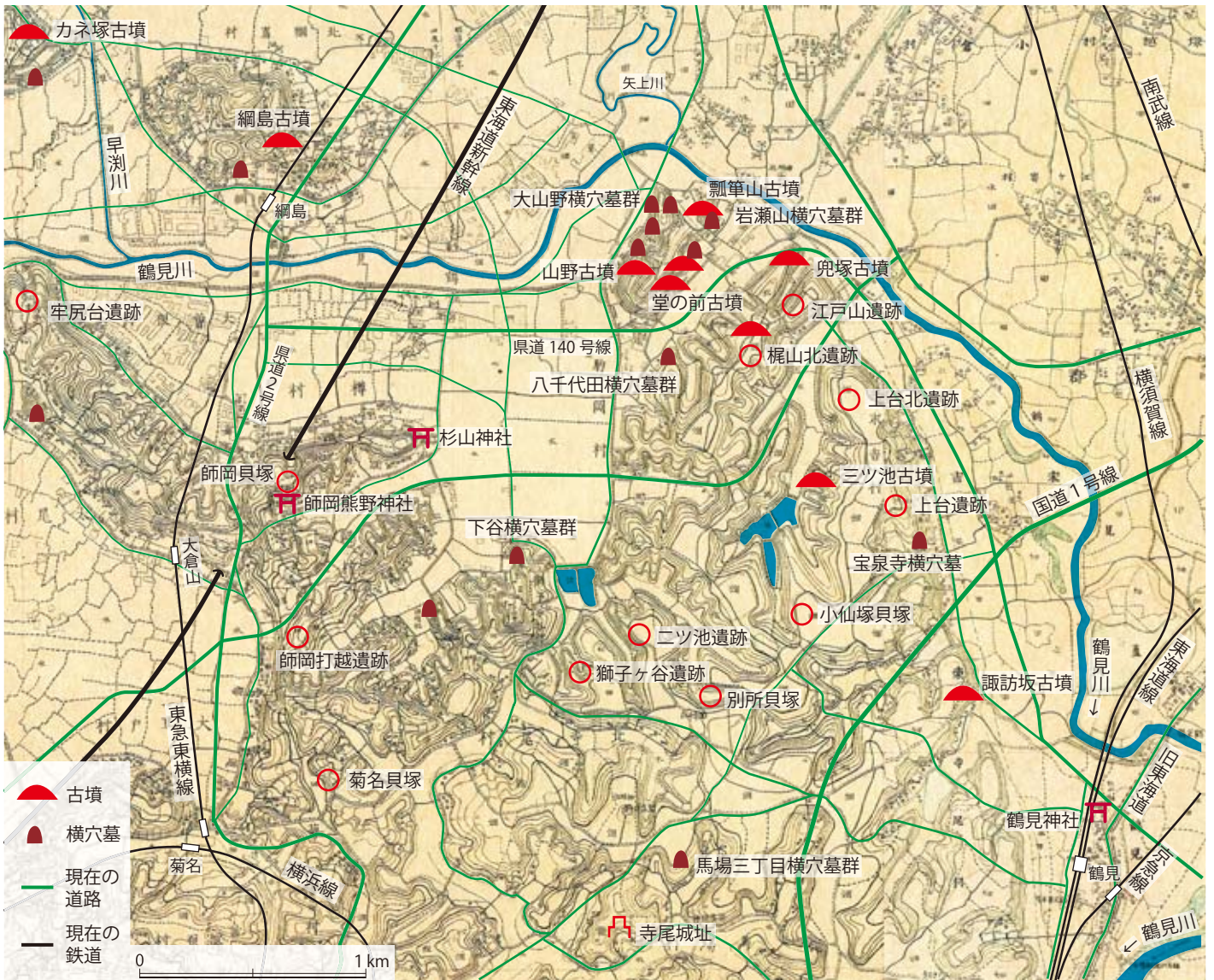
こま おか 駒岡周辺の古墳群

一かつて鶴見川下流域を
支配した豪族たちの奥津城—

「中世の武将、太田道灌が江戸周辺の支城を造るため各地をめぐり、加瀬の台に一夜を過ごした際に、ふと飛来した白鷺が道灌の兜をさらって、やや離れたところに落とし去った。道灌はこれを不吉として加瀬台の築城を思い留まった」。のちにこの伝説により、道灌が夢を見た加瀬の台地は「夢見が崎」（現在の川崎市幸区南加瀬）と呼ばれ、兜が落とされた場所が「兜塚」となりました。この兜塚は現在の鶴見区上末吉小学校の西隣にあり、昭和13年に土取り工事によって削られた際に副葬品が出土して、実は古墳時代の円墳であることが明らかとなっています。

今回は、兜塚古墳など、かつて鶴見区駒岡周辺に数多く存在した古墳・横穴についてご紹介します。

→次頁へつづく



横浜市鶴見区駒岡周辺の古墳と横穴墓の分布

国土地理院所蔵 二万分の一迅速測図（明治14年）に加筆
 ※おおよの位置が分かるように現代の鉄道・道路も掲載しています。

◆駒岡周辺の古墳群

鶴見区駒岡の周辺は横浜市内でも有数の古墳・横穴墓の密集地帯ですが、宅地化の為、ほとんどが破壊されてしまいました。幸い、出土品の一部が東京国立博物館や師岡熊野神社に收藏されており、その内容が断片的に把握できます。また、駒岡岩瀬地区の駒岡山古墳（瓢箪山古墳）や岩瀬山横穴墓群（お穴様）は明治年間に発掘され、信仰の対象となったことから新聞記者や郷土史家の記録に残されました。

これらの断片的な資料や記録により、この地域の古墳群の重要性が今に伝えられているのです。



師岡熊野神社

付属の郷土博物館に古墳出土品が展示されている。
 遺物の見学は事前予約が必要。



桜井準也 2009「明治期における遺跡と民衆—横浜市鶴見区岩瀬山横穴墓群（「お穴様」）をめぐる—」『横浜市歴史博物館紀要』VOL.13 より転載

こまおかやま こふん ひょうたんやま こふん いわ せ やまよこあな ほく ぐん
◆駒岡山古墳（瓢箪山古墳）と岩瀬山横穴墓群

明治40年4月4日、駒岡地区の北端の小山の土取工事の際に突如穴が開き、中から人骨などが出土しました。しばらくして、この穴が「お穴様」として病氣平癒に御利益があると噂が立ち、急速に民衆の信仰の対象となったのです。地元ではこの穴の正体を突きとめようとして、帝国大学教授坪井正五郎博士を招聘して発掘調査を依頼。「お穴様」は結果的に横穴墓で、坪井博士は都合2基の横穴墓（岩瀬山横穴墓群）と山頂の古墳（駒岡山古墳または瓢箪山古墳）を発掘し、出土遺物を当時の帝室博物館（現東京国立博物館）に送りました。これらの遺物は現在も同所で保管されており、『東京国立博物館図版目録』に「横浜市鶴見区駒岡町岩瀬出土品」とあるものがそれとみられ、土師器^{はじきつき}・玉類^{たまぐし}・銅釧^{どうくし}（腕輪^{ちやくとう}）・直刀^{てつぞく}・鉄鍬^{てつくわ}（矢じり^{やじり}）・馬具^{ばぐ}・人物埴輪^{にんぶつはにわ}などがあります。現在は小山ごと削平され、跡形も残っていません。

どう まえ こふん
◆堂の前古墳

駒岡山古墳があった小山から、南西側に細長く伸びる台地上に立地していた古墳。「前方部を北に置く直径二十五米余りの前方後円墳」という記録が残っています（『駒岡及びその周辺の上代遺跡』）。現在は墳丘が不明ですが、古墳が立地していた山自体は残っており、この古墳から出土した埴輪^{もろおかくまのじんじや}が師岡熊野神社に保管されています。埴輪の中には円筒だけでなく、貴人の頭上にさしかける「鬘^{さしば}」や、矢を収納する武具である「鞍^{ゆざ}」、「大刀^{たち}」、「家^{かたど}」などを象った「形象埴輪^{けいしょうはにわ}」があり、貴重な事例となっています。6世紀代の築造。

さん や こふん
◆山野古墳

堂の前古墳の台地の西となりの台地にかつてあった古墳。削平され、正確な位置は不明です。この古墳から出土した遺物として、勾玉4点、管玉2点、丸玉1点などが、師岡熊野神社に伝えられています。

かぶつか こふん
◆兜塚古墳

駒岡山古墳・堂の前古墳の東隣の台地先端に立地する古墳。太田道灌の伝説があります（1頁参照）。昭和6・13年に緊急調査され、「礎床^{めのうせいまがたま}」から瑠璃製^{すいしゅうせい}勾玉^{きりこ}・水晶製^{こんどうせい}切子玉^{じかん}・金銅製耳環などが出土しました。調査時、古墳外形は径30.8mの円墳とされましたが、現在はほとんど破壊されて旧状を留めていません。6世紀代の築造。

みつ いけ こふん
◆三ツ池古墳

県立三ツ池公園の一隅にある古墳。この地域で良好に現存するほぼ唯一の古墳で、貴重。直径20～30m程度の円墳とみられます。未調査。

す わさか こふん
◆諏訪坂古墳

古くに削平されてしまった古墳。前方後円墳^{ぜんぽうこうえんふん}と伝えられています。削平の際に石棺^{ふたいし}の蓋石が発見され、附近に石塔などとともに安置されていましたが、さらなる開発のために移転を余儀なくされ、現在は近くの諏訪坂公園の敷地内に保存されています。



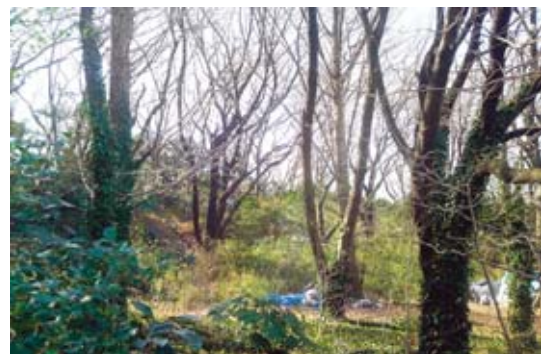
破壊される堂の前古墳
 （昭和四十三年ごろ）
 井上義弘氏撮影 三殿台考古館蔵



堂の前古墳出土埴輪 熊野郷土博物館蔵



伝山野古墳出土玉類 熊野郷土博物館蔵



今も残る三ツ池古墳の墳丘



諏訪坂古墳の石棺蓋石（諏訪坂公園）

人物埴輪のはなし

右の2点の埴輪は東京国立博物館に所蔵されている埴輪で、「横浜市鶴見区駒岡町岩瀬出土品」とされているものです。前頁でふれたように、“お穴様”に関連して明治時代に作成された「^す刷り物^{もの}」にこれらの2点の埴輪の頭部の絵が描かれており、これらが“お穴様”とともに坪井博士によって発掘された駒岡山（瓢箪山）古墳出土品であることが確かめられました（柳沼千枝 2012「埴輪の生産体制と地域社会の研究」『横浜市歴史博物館調査研究報告』8）。

人物埴輪は5世紀代、古墳時代中ごろになって畿内地方で初めてつくられました。はじめは盾や甲冑などの器材形埴輪に顔面を追加することで「盾持ち人」や「武人」の埴輪が誕生したようです。その後、巫女・楽人・力士・鷹匠・馬子・騎馬人物像・農夫など、様々な人物埴輪がつけられました。

それでは駒岡山古墳から出土した人物埴輪はどのような人を表したのでしょうか。右上の（1）とした、人物埴輪は上半身がのこっていて、服装がよくわかります。この人物像はいわゆる「正装男子像」に分類されるもので、甲冑で身を固める武人ではなく、頭に天冠をかぶり美豆良を結う、身分の高い男性です。通常「正装男子像」は前合わせの上着を着、手甲をつけて大刀を佩いていますが、この人物は、欠損の為か、上着に合わせや結び紐の表現などがなく、また大刀も佩いていません。ただ、左腕がなくなっているため、本来は左手で大刀を持っていたのかもしれない。また、「正装男子像」は本来全身立像で作られることが多く、この埴輪も足があった可能性が高いと言えます。もう一つの（2）としたものも頭部だけですが、帽子をかぶっているところから身分の高い人物のようです。

このような「正装男子像」は6世紀に関東で多く製作され、駒岡山古墳出土例もこうした事例のひとつと言えます。



横浜市鶴見区駒岡山（瓢箪山）古墳出土人物埴輪（1）
所蔵・写真提供：東京国立博物館 「埴輪正装男子残欠」 Image:TNM Image Archives



横浜市鶴見区駒岡山（瓢箪山）古墳出土人物埴輪（2）
所蔵・写真提供：東京国立博物館 「埴輪男子頭部残欠」 Image:TNM Image Archives

「埋文よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

埋蔵文化財センターのご案内

JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行き、または港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

京浜急行「金沢八景」駅

国道沿い1番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き、終点「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

- ・見学等の施設利用は、平日の9～17時となっています（受付16時まで）。
- ・施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

埋文よこはま29

発行日 2014年3月10日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1551